

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2434 号

19 世紀における西洋美術解剖学の歴史：日本の美術解剖学の前史として

(History of the Western artistic anatomy in the 19th century - Prehistory of artistic anatomy in Japan)

加藤 公太 (かとう こうた)

博士 (医学)

Abstract

美術解剖学は、15 世紀ルネサンスのレオナルド・ダ・ヴィンチらの人体解剖を経て、ヨーロッパで 17 世紀に成立した。その教育方法は 19 世紀に完成し、明治時代に日本にもたらされた。19 世紀に出版された欧米の美術解剖学書を蒐集し、教科書の出版数の増減と内容の変化から、前期・中期・後期の 3 期に区分した。1801～28 年までの前期には、フランスの解剖学者ジャン・ガルベール・サルヴァージュによるギリシャ彫刻の解剖図など、美術解剖学固有の教育方法が模索された。1829～69 年までの中期には、フランスの解剖学者ピエール・ニコラ・ジェルディによってヌードデッサンと解剖学の授業が統合され、美術学校の教育方法に合うような体表解剖学や運動生理学といった教育方法が導入された。1870～1900 年までの後期には、フランスの解剖学者ポール・リシェによって体表解剖学や運動生理学の統合、あまり記載されていなかった深部の筋などの情報が加えられ、現在でも世界的に使用される教科書が編纂された。

そして、美術解剖学に関連する分野にメディカルイラストレーションがある。この分野は、ドイツの画家マックス・ブレーデルによって 19 世紀末ごろから 20 世紀初頭に成立した。19 世紀の美術解剖学の歴史は、メディカルイラストレーションの前史にあたる。両分野の基盤となっているのは美術学校における美術解剖学教育であるものの、目的とする対象の違いから人的なつながりがほとんど見られず、両分野の図版には表現に差異が見られた。美術解剖学では体表観察と一致するように、骨格や筋の図に体表のアウトラインが描かれていた。解剖・手術体験と一致するように筋の切断面や反転した状態が描かれていた。

最後に、西洋における研究調査から日本の美術解剖学史への接続を試みた。工部美術学校と東京美術学校（現東京藝術大学）の歴史はそれぞれ異なり、前者は 19 世紀前期に出版されたイタリアの美術解剖学の教科書を主体とした教育であった。東京美術学校の教育は、当初森鷗外によってドイツの解剖学者ジュリアス・コルマンによる教科書を使用していたが。その後、洋画家の久米桂一郎によってポール・リシェの教科書が導入され、この教育が今日まで継承されている。従って現代的な日本の美術解剖学教育が 19 世紀西洋の美術解剖学に端を発していることが明らかになった。